

11月号

広報

1988



と

No. 188

昭和63年11月20日発行

発行所 瀬戸町役場

☎0894(0)52-0111

〒796-05 愛媛県瀬戸町三机

編集 企画課



— 11月3日 芸能文化祭より —

神崎地区の皆さんによる神楽

(関連記事 公民館だより)

リゾートを具備する要件には、中長期滞在性、非日常性、自然性、保養性、多機能性、計画性、広域性等が挙げられ、リゾート整備を推進する場合、これらの要件をどの程度具備できるかが課題となつてきます。

二十一世紀に向けて

一、多機能性
リゾートは単なる通過型の観光地とは違い、トータルなリゾート・ライフの場として位置付けられ、生活のために必要な様々な機能が要求されます。

地域づくりが要求されます。具体的諸機能には、生活の基盤となる居住機能、交通機能、供給処理機能、商業サービス機能、医療機能等の生活機能を核とし、人々の様々な活動に対応するスポーツ・レクリエーション機能、健康増進機能、文化教養機能等が組み込まれている必要があります。

二、独自性と多機能性
多機能性を持たせ、内容を充実したところで、どこにでもある画一化されたものではなく、言えず、地域そのものとの結び付きが最も重要となつてきます。

すなわち、その地域が持つ自然・社会・経済・文化・歴史等の特色を生かしてこそ成り立つものなのです。

最近リゾートの多くは、ゴルフ場、スキー場、ホテル等をセットしたものが主ですが、金銭多消費型のみがリゾートではないのです。

アメリカのリゾート活動の中では、キャンプによる

中長期滞在や農園付週末住宅での週末休暇が多く、豪華なホテルで長期滞在を楽しむ層は限られています。

また、ヨーロッパでもキャンプやペンションなどの低廉な宿泊施設での滞在が主流となつてきています。

このような事実から農山漁村地域での「田園リゾート」も十分に成立し得る訳です。

また、都市での住宅事情ゆとりある余暇活動への志向を考えると、都市から二時間圏の海浜部や高原にセカンドハウスを求めて、ゆたかな週末を過ごすという需要が相当拡大していくものと予想されています。

こうした需要に適切に対応していくことが、地域振興を促すことになり、リゾートは、そこに居住し暮らすことの出来る生活空間であり、地域の特性を十分に生かして居住しやすく、人々に住んでみたいと思わせる都市やまちを作りあげることが大切なのです。

瀬戸の明日を考える

瀬戸若者塾を開設
愛媛県生活文化若者塾開設モデル事業として、十月二十四日に「瀬戸若者塾」が開設されました。

国道頂上線の全線開通を契機に、町活性化を進める中で、若者としての役割を考へることを目的として、塾生は、農業および漁業後継者、商工会青年部、三机壮年会、VA大久、教職員、農協職員、町職員の代表各二名づつの合計十六名で構成されています。

当日は開講式に引き続き、役員として塾長に大久保光留氏、副塾長に木野秀俊氏、運営委員に久世康夫氏および稲井太郎氏が選出され、活動計画が決定されました。

第一回のテーマのひとつ



「瀬戸若者塾」の開講式

疾走!! 師走の佐田岬
— 駆伝大会開催決定 —
88佐田岬メロディライオン駆伝競走大会が、十二月十八日(日)開催されます。

三崎町商工会前をスタートし、八幡浜市白浜公民館前のゴールをめざし、国道

である町の歴史については、元町誌編集委員の是沢岩兼氏(川之浜)により、先住民の足跡から江戸時代藩主と三机浦のかかわり等について、膨大な歴史を紐解きご講演いただきました。

今後は、テーマごとに延べ三回の会合と先現地視察等を経て、成果を冊子にまとめ発表する予定になっており、町活性化の起爆剤として大いに期待されます。

生涯スポーツの勧め

生きがいの発見や仲間づくりに大きなメリット

● 人生の円熟期に仲間をつくらう
年をとると、体を動かすことがおっくうになりがちです。そのため、家から出ることが少なくなり、孤独になる傾向があります。そこで勧めたいのが「スポーツ」への参加です。いまさら運動なんて「慣れないことはしたくない」と言わずに、自分

がてきそうなスポーツをみつけてください。年をとっても適度なスポーツを続けることは、いろいろな面にプラスがあります。スポーツをすれば自然に足腰を動かすことになるので、楽しみながら体力維持ができます。また、手足を動かしながら頭も

体力維持とスポーツ

あなたは十歳若返る!?

日本人の総合的な体力のピークは、男女とも十七歳から十八歳というデータがあります。このピークを迎える前後の時期に、スポーツに励み、体力を増強につとめれば、標準の体力ピークを上回り、同じ十七歳でも持久力や瞬発力などに大きなひらきがでてきます。また、鍛えた人の体力のピークはスポーツをしない人がより高いので、同じように年をとっていったと

ても、スポーツをしなかった人の体力を常に上回ることに なります(図参照)。

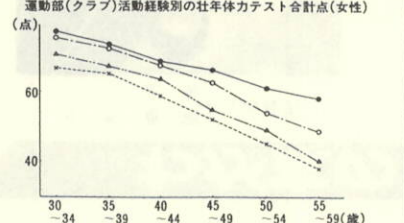
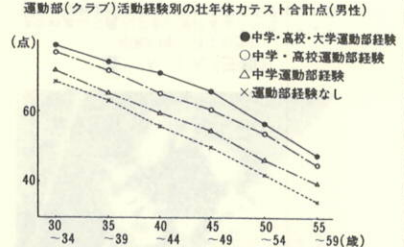
また、三十歳以上の壮年体力テストの結果によると、五十九歳の人の体力は、合計点でみると三十歳の人の半分以下になるといふデータがあります。しかし、三十歳からでも週三〜四日の適度な運動をすれば、体力維持につながります。もし長年こうした運動を続けていけば、年齢は

五十九歳でも、肉体は十歳以上も若く保つてことが分かっていきます。

このほか週一〜二回の運動や月一〜二回の運動でも、続けてやっていると、運動をしなくても同じ年の人よりは、体力が四〜五歳若いというデータもあります。

企業によっては、定年前に体力テストを行い、体力年齢が若いと定年を延ばすところもあると聞きます。

健康で体力があるというのは、いくつになっても大切なことです。





末長く
お幸せに

昭和63年10月分

人々のうごき

(10月現在)

世帯数	1,297戸
人口	3,469人
男	1,598人
女	1,871人
本籍数	4,379戸
本籍人口	14,628人



お誕生
おめでとう

お礼

広報発送費用にと、ご寄付をいただきました。

紙上より、厚くお礼申し上げます。

大分市千代町四丁目三二二十五

清水 愛文様

松山市別府町四百七十の二

中 ひめ代様

呉市新宮町十七の十九

岩村 幸男様

大阪府南河内郡美原町南余部二百六十四一丸

富田 ヨネ子様



おくやみ